

(仮訳)

プレス・リリース

2025年2月4日

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループは、バーゼル銀行監督委員会の作業計画を承認

- バーゼル委の上位機関は、バーゼル委の2025-26年の作業計画及び戦略的優先事項を承認。
- 作業計画は、バーゼルⅢの実施、新たなリスクと脆弱性、デジタル化及び流動性に関する作業を優先する。
- GHOSのメンバーは、バーゼルⅢを完全かつ統合的な形で実施することへの期待を全会一致で再確認。

バーゼル銀行監督委員会（以下、「バーゼル委」）の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（以下、「GHOS」）は、2月4日に会合を開催し、バーゼル委の2025-26年の作業計画及び戦略的優先事項を承認した。

バーゼル委の2025-26年の作業計画の主要テーマには以下の事項が含まれる。

- (i) バーゼルⅢの実施
- (ii) 2023年3月の銀行を巡る混乱から得られた教訓に対応するために実施されているフォローアップ作業を含む、リスク評価及び頑健性確保
- (iii) 金融のデジタル化
- (iv) 流動性

GHOSはまた、今年中に気候関連金融リスクに関するバーゼル委の作業をストックテイクすることに合意した。

作業を実施するにあたり、バーゼル委は、幅広いステークホルダーと引き続き協調・協力していく。これには、他の基準設定主体や国際的なフォーラムとのセクター横断的な金融の取組みに関する従来からの協調関係が含まれる。バーゼル委はまた、幅広い外部ステークホルダーの見解やインプットを求めるという、長年にわたり確立されてきたアプローチを引き続き追求していく。

GHOS 議長であるティフ・マックレム氏（カナダ中央銀行総裁）は、「全ての GHOS メンバーは、国際的に公平な競争環境を確保し、グローバルな銀行システムの強靱性を高めるため、バーゼルⅢを完全かつ統合的な形で実施するというコミットメントを全会一致で再確認した」と述べた。

バーゼル委議長であるエリック・テデー氏（スウェーデン中央銀行総裁）は、「国際的な協力を促進し、グローバルな銀行システムに影響を及ぼす新たなリスクや脆弱性を軽減するためのフォワードルッキングなアプローチを追求することにより、バーゼル委の 2025-26 年作業計画は、世界中の銀行規制・監督及び銀行実務をさらに強化し、グローバルな金融の安定性を促進し、長期的な経済成長を支援することを目指している」と述べた。